

# 学校評価(後期)

- 1 自己評価結果（前期と後期の比較）
- 2 児童アンケート結果  
（前期と後期の比較）
  - ・ 甲斐市小学校結果
  - ・ 本校全児童結果
  - ・ 各学年児童結果
- 3 保護者アンケート結果（前年度との比較）
  - ・ 甲斐市小学校結果
  - ・ 本校全児童結果
  - ・ 各学年児童結果
- 4 職員，児童，保護者の相関図

# 甲斐市立竜王南小学校 自己評価(後期)

平成28年1月29日(金)作成

学校長 堀内 訓 | 記述者 職名: 教務主任 氏名: 内藤 賢

## ◇ 本年度の学校教育目標

### 「楽しい学校(楽校)の創造」 -やる気 こん気 げん気-

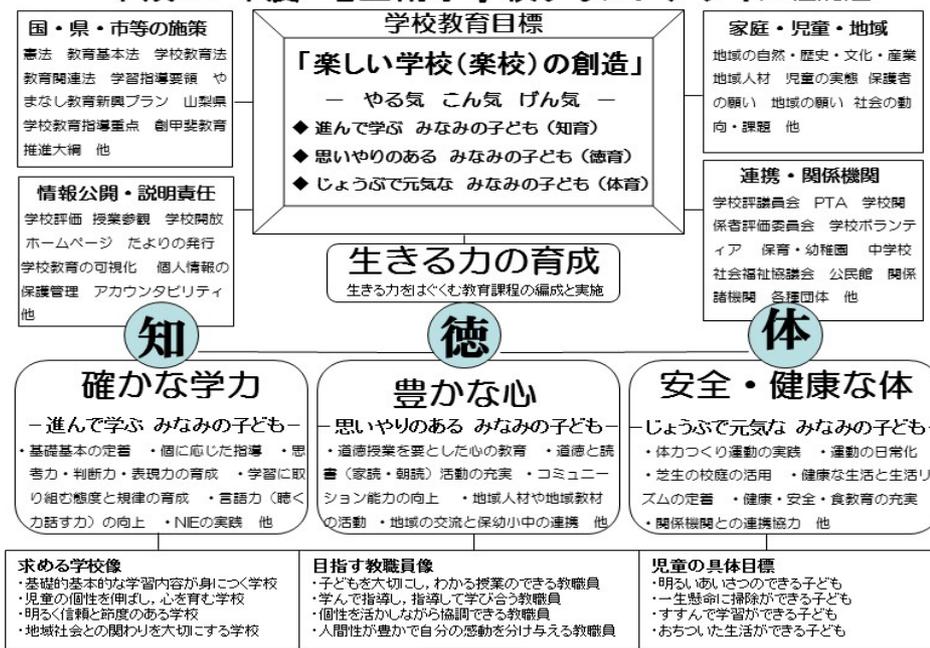
#### ○ 具体目標(めざす子ども像)

- ・ 進んで学ぶ **みなみの子ども** (知育・確かな学力)
- ・ 思いやりのある **みなみの子ども** (徳育・豊かな心)
- ・ じょうぶでげん気な **みなみの子ども** (体育・健康な体)

#### ◎ 児童の行動目標

- ①「授業に集中」しよう。
- ②「あいさつ」をしよう。
- ③「命を大事に」しよう。

## 平成27年度 竜王南小学校グランドデザイン(全体計画)



**今年度の経営目標と具体策**

- \*知育: 基礎的・基本的な学習内容を習得できる(朝学習・家庭学習) 授業の中で意見交換の場を持つことができる(話し方・聞き方・読み方)
- \*徳育: あいさつ・掃除等の生活習慣を身に付ける(当たり前10か条の推進) 人間関係を育てるが学年・学級経営を充実させる(QU・呼び捨て禁止・読書)
- \*体育: 体育授業や行事を充実する(一校一実践運動) 食と健康に関する指導(教科・学級指導) 自ら危険予測・回避できる(防災訓練・学級指導)
- \*特支: 支援体制を確立する(コーディネーター・校内委員会の運用・個別の指導計画・個別の教育支援計画作成) ことばの教室の効果的な活用と連携

**楽しい授業・わかる授業**

- ・楽しくわかる授業の工夫・QUを生かした集団づくり
- ・個に応じた指導法の工夫・個のニーズに応じた特別支援教育の充実・未来を見据えた広い視野の教育活動(英語・情報・キャリア等)・スクールボランティア、外部講師、ゲストティーチャー、出前授業の実施・交流活動及び体験活動の充実(保幼小中連携)・校内研究の充実と全職員の授業公開 他



**地域の教育資源の活用**  
-地域は最大の教材・教具-

- ・総合的な学習の時間(地域、食育、キャリア等)の充実・地域素材の教材化と地域学習(理科、社会科等)の実践・地域人材やスクールボランティアの活用・保幼小中の連携・学校農園の活用と食育の充実・郷土資料館の活用 他

**共に学び、共に育てる**

- ・授業参観、PTA活動等の充実・学校開放日の充実・学校評価の実施と改善・地域人材、スクールボランティア、ゲストティーチャー、出前授業の活用・異学年集団活動及び自治的な児童会活動の充実・保幼小中の連携・博学、産学及び学社連携・スタディールームの実効性ある活用と特別支援教育の充実・「ことばの教室」との交流・全職員学級担任としての関わりと教師力の向上 他

**特色ある教育活動**

- ・芝生の校庭の活用・フラッグフットボールの実践・「当たり前10か条」の定着・縦割り(異学年集団)活動の実践・NIEの実践・地域との交流と連携・「ことばの教室」との連携・スクールボランティア、外部講師、ゲストティーチャー、出前授業の活用・ホームページの充実・学校開放と教育の見える化・創意工夫した掲示板・緑のカーテンの実践 他

# I 平成27年度 甲斐市立竜王南小学校「学校評価」の経過

日時	実施内容	備考	日時	実施内容	備考
5月22日 (金)	・自己評価及び児童用アンケート受理	・終礼にて提案 ・自己評価及び児童用アンケート配布	11月16日 (月)	各クラスへ ・自己評価 ・保護者アンケート ・児童用アンケート 配布	・11月職員会議にて提案 ・自己評価及び保護者アンケート、児童用アンケート配布
6月1日 (月)	・前期自己評価実施開始 ・児童用アンケート実施開始 ・前期自己評価実施	・児童用アンケートは、実施後教務主任へ各クラスごと提出。 ・自己評価は、実施後所定の袋に入れる。	11月17日 (火)	・保護者アンケートを全児童数配布 ・自己評価実施 ・児童用アンケート実施開始	・保護者には、お知らせとセットで配布
6月5日 (金)	・児童用アンケート回収完了		11月24日 (火)	・保護者アンケート回収締切 ・児童用アンケート実施回収締切 ・自己評価提出締切	・シートの回答者欄は必ず確認
6月8日 (月)	・前期自己評価送付 ・児童アンケート送付	・教育総務課集配→委託業者	12月7日 (月)	・自己評価送付 ・児童アンケート送付	・教育総務課集配→委託業者
7月3日 (金)	・自己評価書作成完了(教務主任)	・完成した評価を校長・教頭へ提出(監査)	1月13日 (水)	・集計結果 学校着	
7月17日 (金)	・自己評価書校内報告	・終礼にて報告	1月19日 (火)	・学校関係者評価委員会開催の通知配布	
7月22日 (水)	・学校関係者評価委員会開催 PM7:30- 会議室	・出席者：学校関係者評価委員・校長・教頭・教務主任・生徒指導主任	1月下旬	・自己評価書作成完了(教務主任)	・完成した評価を校長・教頭へ提出(監査を受ける)
7月24日 (金)	・学校関係者評価書校内報告	・校内研の中で報告	2月5日 (金)	・学校関係者評価委員会開催 PM7:30- 会議室	・出席者：学校関係者評価委員・校長・教頭・教務主任・生徒指導主任
8月下旬	・自己評価書+学校関係者評価書HP公表(市教委確認後)	・情報担当(二宮)HPアップ	2月18日 (木)	・学校関係者評価書作成完了(教務主任) ・グラウンドデザイン作成完了(教務主任)	・完成した評価を校長・教頭へ提出(監査を受ける)
7月30日 (木)	・自己評価書+学校関係者評価書提出	・市教委提出	2月19日 (金)	・学校関係者評価書校内報告 ・グラウンドデザイン校内報告	・終礼にて報告
			2月25日 まで	・自己評価書 ・学校関係者評価書作成提出	・教育総務課提出(教務主任)
			3月18日 まで	・自己評価、学校関係者評価、グラウンドデザインHP公表 ・結果の公表(保護者地域)	・情報担当(二宮)→HPアップ ・家庭数配布 ・地域関係者へ郵送
			3月24日 (木)	・定例教育委員会へ集計結果、自己評価書、学校関係者評価書の報告	・定例教育委員会

## II 全体評価

学校教育目標「楽しい学校(楽校)の創造」に具体的に取り組むため、「明るいあいさつができる子ども」「一生懸命に掃除ができる子ども」「すすんで学習できる子ども」「おちついた生活ができる子ども」の4つを具体目標として取り組んでいる。

前期の評価において、「明るいあいさつ」についてはAB評価の数値が高いものの、自分ではしているつもりだが相手に届いていない場合があることを課題とした。児童会活動や生徒指導で具体的活動により充実を図っているものの、後期も思うように数値が上がってきていないこと、地域からも「あいさつしない」との声をいただいていることから、より一層の努力が必要である。学校ではあいさつをするが地域ではできない(知っている人にはするが知らない人にはできない)ケース、相手から言われたいとできないケースがある。地域と連携し、あいさつをしてよかったと思わせるような指導が必要である。

「一生懸命に掃除」については高い数値である。日々の分担場所だけでなく、校庭には季節によって様々な美化活動があるが、今年度は特に校長や教頭の求めに子どもたちが積極的に働き、学校美化に努めてくれる姿が目立った。働くことが大好きな子どもが多いのも本校のよさの一つだと感じる。

「進んで学習」では、「宿題をしない」割合が減ったこと、「学年の目標時間勉強をする」のAB評価が前期の78.6%から後期は84.7%に伸びたことが成果としてあげられる。校内研の一環として家庭学習の取り組みに力を入れたこと、ご家庭のご理解・ご協力をいただけたことが向上につながったと考えられる。

「落ちついた生活」については、AB評価が90%と高くなっている。一学期同様、子どもたちは明るく元気に活動し、落ちついて学習している。遊ぶ時は遊び、学ぶ時は学ぶ「けじめ」を大切に指導してきている。前期の課題にあげた「廊下を歩く」については意識が足りない子がまだいるので、安全な環境づくりのためにも今後も皆で声かけをして取り組んでいく必要がある。

## III 各項目ごとの評価

### 1 学校教育目標・学校経営について

学校教育目標・学校経営については、ほとんどの項目でA（そう思う）＋B（ややそう思う）が100%の回答があった。AとBのバランスが変わったところもあるが、学年・学級づくりのために学校経営方針をより重視した前期の学級・分掌経営から、後期は日々の授業向上に意識が移っていることによるものと思われる。教育目標・具体目標が理解され、深く浸透した結果と言える。また、それぞれの児童にあった学習方法や指導方法をそれぞれの職員が考え実行してきた結果とも言える。

Q3については、各学年目標の6学年のつながりを確認し改善を図ったことから数値が上がったと思われる。前期課題だった職場の福利厚生及び健康管理については、管理職や養護教諭の積極的かつ迅速な対応が行われたものの日々の多忙感に追われるためか、数値がなかなか上がらない。今後も勤務への充実感を持てる環境づくりを進めたい。

## 2 学校運営について

どの項目もA評価の割合が前期より高くなっている。新任の先生方が本校の施設管理や危機管理マニュアルを理解して運用できるようになってきたことや、職員同士のコミュニケーションが深まって協力体制が充実してきたこと、校内研究が軌道に乗り、主体的に研究を進められるようになったことがわかる。Q11の教職員の服務については、相次ぐ教職員の不祥事を他人事にとらえず、自ら襟を正していることが強くうかがえる。A＋Bでほぼ100%という結果に満足せず、堂々とA評価をつけられるように、職員会議や校内研究の持ち方を工夫し、職員一人一人が日々活躍できる雰囲気高めたい。

## 3 学習指導について

本校の課題に対して、教職員が質の高い学習指導のためにまず集団づくりを重視していること、基礎・基本の確実な定着をめざし、本校の校内研究で取り組む「学びあい」を推進するため「発言」を大切に、家庭学習指導に力を注いでいることがわかる。Q10の外国語活動等への取り組みについては、前期より格段に意識が高まった。前期の反省から、ALTと担任で授業前に指導方法を検討するミーティングの時間を確保した。このことにより、以前より担任が児童の興味関心を高める工夫ができるようになり、自信を持って指導できるようになった。Q5, 6については、毎日多岐にわたる授業を行う小学校教師としてできる限り努力している数値にとらえたいが、明確な授業づくりのために指導と評価の一体化はさらに高めていかななくてはならない。

## 4 生徒指導について

今年度も生徒指導担当を中心に共同体制を構築し、課題を共有してチームで生徒指導にあたってきた。学校での学習・生活のきまりは、常に全職員が共通認識のもと対応してきた。その成果がA＋B評価100%に表れていると思う。

Q3では、前期にあったC評価がなくなった。特別な授業を行うのではなく、各学年のキャリア教育の教育課程をもつ一度見直し、各教科の中でキャリア教育につながる学習内容を再確認して日々の授業で意識することを前期学校評価の反省とした。各教科の主目標となる学習内容指導に精一杯で、なかなか「生き方教育」と自信を持って言えるところまでいかないのがA評価の数値の低さに表れているのかもしれない。

Q7では、前期よりもA評価の数値が上がった。学校教育において、目の前の子どもたちの豊かな心をどう育てるか、校内研で道徳の授業研究を行ったり、道徳推進教師が中心になって「私たちの道徳」の活用など道徳教育の研修を行ったりしたことが日々の指導に反映できたと思われる。

## 5 地域との連携について

全体として数値が前期よりも上がっている。4月からの様々な活動を行う中で、家庭・地域との連携が深まってきたことを表している。特に胞子の会の方々のご支援、1年生の昔の遊び集会や5年生のミシン指導など各学年の学習への保護者参加は、本校にとって不可欠な連携となっていて本当にありがたい。Q5,6,7ではC評価があがったが、特にQ5,7では、平成25, 26年度にA評価が30～40%台だったので、A評価が年々上がっていることを考えると改善されてきたと言える。学校としては、学校行事での連携やホームページの充実はもちろん、日々の子どもの成長や変化でも保護者と連絡を取り合い、保護者と学校がコミュニケーションを密に図ることがまず大事であると感じている。資料の最後にある教職員と保護者のアンケートの比較（相関図）では、まだまだ学校の教育活動について、職員と保護者の考えに差があることも分かった。より地域に信頼され「開かれた学校」を目指すためにも、HPや学校たより、今年度始めたラジオ体操参加のような地域活動参加を続けたい。

## 6 学校の特色に関して

すべての項目でA+B評価が100%となった。前期にはQ4, 8でC評価があったのだが、教職員の共通理解のもと、特色ある学校づくりに取り組む意識が高まったと感じる。Q5掲示物による教育環境づくりの例として、職員室前に各クラス1名の図工作品紹介する「菟南美術館」をつくり、子どもたちの自己肯定感を高められる一助とした。Q7朝読書・朝学習では、教職員の朝礼をなくして担任が朝から教室にいられるようにしたことで計画的な取り組みができるようになった。Q9食育については、栄養士が給食指導でおたよりや楽しくおいしい取り組みを計画的に行ってくれることが教職員の意識の高さにつながっている。Q1挨拶指導についても前期よりA評価が高くなっているものの、実際にはなかなか子どもたちの挨拶の様子が高まっていけない状況がある。子どもたちと保護者、教職員の意識にずれがあるところにも課題がある。全体評価でも述べたが、挨拶について、学校、家庭、地域の連携による指導が必要だと考える。

## V 児童アンケートから

昨年度と同様に、全体的にA評価の数値が前期より低下していることが分かる。A+B評価とすると前期とあまり変化がない。新学期からその学年での生活が進み、子どもたちは、日々の生活で様々なこととががんばっているものの、十分満足できる自分の姿になっていないという誠実さの表れととらえる。自信を持って「そう思う」と答えられるよう、我々教師は支援していく必要がある。Q21では、明らかに数値の低下がみられる。さまりに対しての意識が高くなったためにかえって数値が下がったとも考えられるが、前期の新学期を迎えた子どもたちと教職員の意識の高さに対して、後期は低下したとも考えられる。子どもたちの心に響くような指導を全職員で行っていきたい。

Q11では、課題となっているC評価がまだ目立つ。教師の自己評価での意識は高いので、継続して子どもたちが意欲的に質問や意見を言える指導を続けたい。一方、宿題や家庭学習への意識は少しずつ向上している。子どもたちのがんばりと、家庭学習への家庭と学校での取り組みの成果なので、今後も粘り強く継続させたい。今後とも全児童が充実して満足できる「楽しい学校」を創造すべく、なお一層の取り組みが求められる。

## IV 保護者アンケートから

昨年度とほぼ同様、A+B評価の数値が高い結果となった。今年一年間の学校での取り組みや児童の変容が、保護者にも理解が得られたことを示すものと感じられる。その中で注目するのは、Q13自主学習でのD評価の減少である。家庭と学校の連携により、自主学習をやらない児童が減ったことを表している。取り組んできた「家庭学習の手引き」等を通して、児童の学習に関心を持ち、家庭で取り組めるようにしていただいたことを嬉しく思う。

しかし、保護者のアンケートから課題も見えた。Q3,16,20,23ではA評価が10%台であり、学校からの取り組みの「発信」や地域・保護者との「連携」が十分でないと感じる。運動会の反省をアンケートし、多くの保護者や地域の方々に意見をいただいて新年度に生かしているが、このような取り組みを今後も続けると同時に発信することも大切であると思われる。また、仲の良い友達を知っているものの、困った時に相談できる友達がわからない保護者が20%ほどいるが、昨年度の17%から増加している。これは昨年度からの課題であり、学校行事へのかかわりを多く持つことでクラスや学校、他の児童、保護者をより多く知ってもらうことが改めて必要である。さらに、家庭学習が伸びてきた反面、Q8授業の理解度の低下が、昨年度より進んでしまっている。児童の個人差が大きくなっていることが要因と思われる。基礎・基本の定着と丁寧な学習を根気強く続けていくことが求められる。

保護者のアンケートからは、児童アンケートよりもA評価（そう思う）よりもB評価（ややそう思う）の数値が高いものが多い。これは概ね満足しているが、今後より充実した学校での活動が期待されているという証でもある。一人ずつの児童をよく見つけ、地域に耳を傾け、共に児童を支えていく視点で活動していく重要性をあらためて感じる結果となっている。